

ヌグイク沢

1986年7月27日

L

林道の途中で車を止め、5分程歩くとヌグイク沢の出合となる。ヌグイク沢とカマトリコ沢は、地図上では合流しているように描かれているが、実際には、全く別々に本流に注いでいる。

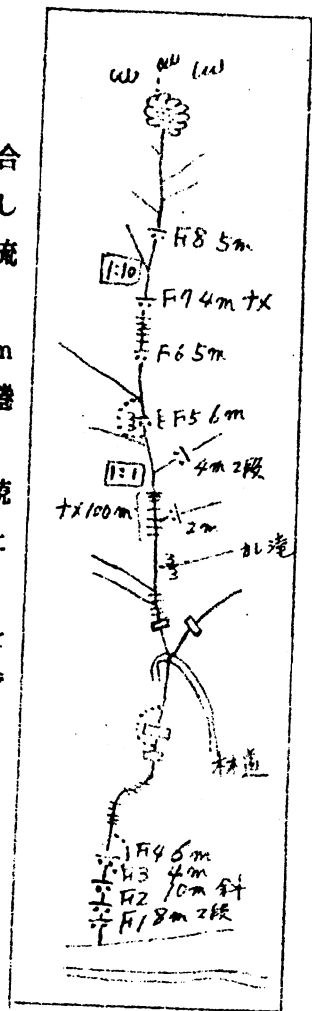
本流へは2段8mの滝となって注いでおり、続いて10mの斜瀑、4m、6mの滝が現われる。6mの滝は左岸を捲く。

この先沢はナメの様相を呈してくるが、まもなく2つ続いて堰堤が現われる。そして左岸の上方にはダム工事用と思われる林道がはっきり見えてくる。

やがて二俣。左右ともに堰堤がある。左俣に入り堰堤を越すと、ナメが現われ、100mくらい続く。F₅6mは直登できず右岸を捲く。そこからも滝とナメが交互に現われる。F₇を過ぎると極端に水が少なくなる。さらに進むと、水が溜れ、ガレ場となる。最後はヤブをこいで稜線に出る。

(記・

[タイム] 出合(7:00)→林道(7:20)→稜線(9:45)



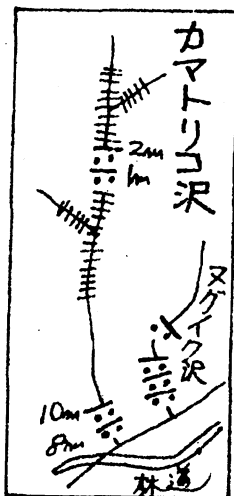
カマトリコ沢

1986年7月27日

L

まず始めに、地図の間違いを指摘しておく。地図では、カマトリコ沢はヌグイク沢と合流したあとで釜沢に合流するようになっているが、実際にはそれぞれ別々に合流している。地図にある合流点は、ヌグイク沢のそれで、カマトリコ沢の合流点はそのすぐ下流となっている。地図では、林道が沢を横切るところのすぐ上、小さなルンゼ状のくぼみになっていねあたりである。

出合は滝が2つ続く。8m 2段滝と10mの滝。下の8m 2段滝は楽に直登できる。上の10m滝はホールドが細かく、ちょっと緊張させられる。コケがついていることもあり、私がさきに登ってザイルを出す。帰路はこの滝が懸垂下降となった。



出合の2つの滝を過ぎると、あとは平凡となる。おまけに水もなくなって、ちょっと張り合いがなくなった。

やがてナメが出てきて二俣。右俣に入る。ナメが続き、小滝もでてくるが、平凡なままで源頭となってしまった。適当な所で引き返す。

(記・

[タイム] 出合(7:15)→二俣(7:45)→遡行終了(8:20)

蔵川中俣

1986年7月26日

L

栗生沢の部落から蔵川左岸の河岸段丘上につけられた踏跡をたどる。この踏跡は河岸段丘上にひらけた畑に向かうものであるが、もっとも近い部分の畑以外が放棄されてしまった現在では、踏跡の管理もままならないのか、荒地と化してしまった耕地の中で完全にブッシュに埋まってしまっていて、ちょっと迷ってしまった。しかし、それも樹林帯には入るまでで、その先は結構はっきりしていた。

踏跡が新しい植林地に出たところで、コクトツ沢との出合に向けて、樹林帯の急斜面を下る。下りついた所は、砂防ダムの上流で、ダムのすぐ上流がコクトツ沢出合であった。ここまで苦労して踏跡をたどったというのに、何と、ここには車道がのびてきていた。ダム建設のときに作られたものらしい。これを知っていれば、苦労することはなかった。

7:45、アノヤマ沢に入る和泉パーティと一緒に遡行開始。樹林帯の中の暗い沢であるが平凡。20分程遡ってアノヤマ沢出合。和泉パーティと別れる。

アノヤマ沢出合のあたりからは、左岸に岩場が出てきて、先を期待させたが、依然平凡な沢筋が続く。と、左岸に石積みの炭焼き釜跡。土でできた炭焼き釜ならよく見るが、石積みとは珍しい。しかも原形をとどめている。記念に写真を撮って、また歩き続ける。

ゴイチガ沢出合を過ぎてしばらく遡った所で、

